

システム根太SG  
施工要領書



## 【目次】

1. はじめに	…2
2. 製品仕様	
2-1. システム根太SGとは	…2
2-2. 構成	…2
2-3. 材質	…3
2-4. 製品規格	…3～4
2-5. 床高調整範囲	…5
2-6. ナットとボルトの組み合わせ	…6
3. 施工手順	
3-1. 施工を始める前の確認・点検事項	…7
3-2. 施工手順	…8～11
4. 配置方法	
4-1. 一般部	…12
4-2. 入隅部	…13
4-3. 出隅部	…14
4-4. 柱型部	…15
4-5. パーティクルボードのかかり寸法について	…16

## 1. はじめに

本書は、「システム根太SG」の施工要領を記載しています。

本書をよく読み、正しくお取扱いただきますようお願いいたします。

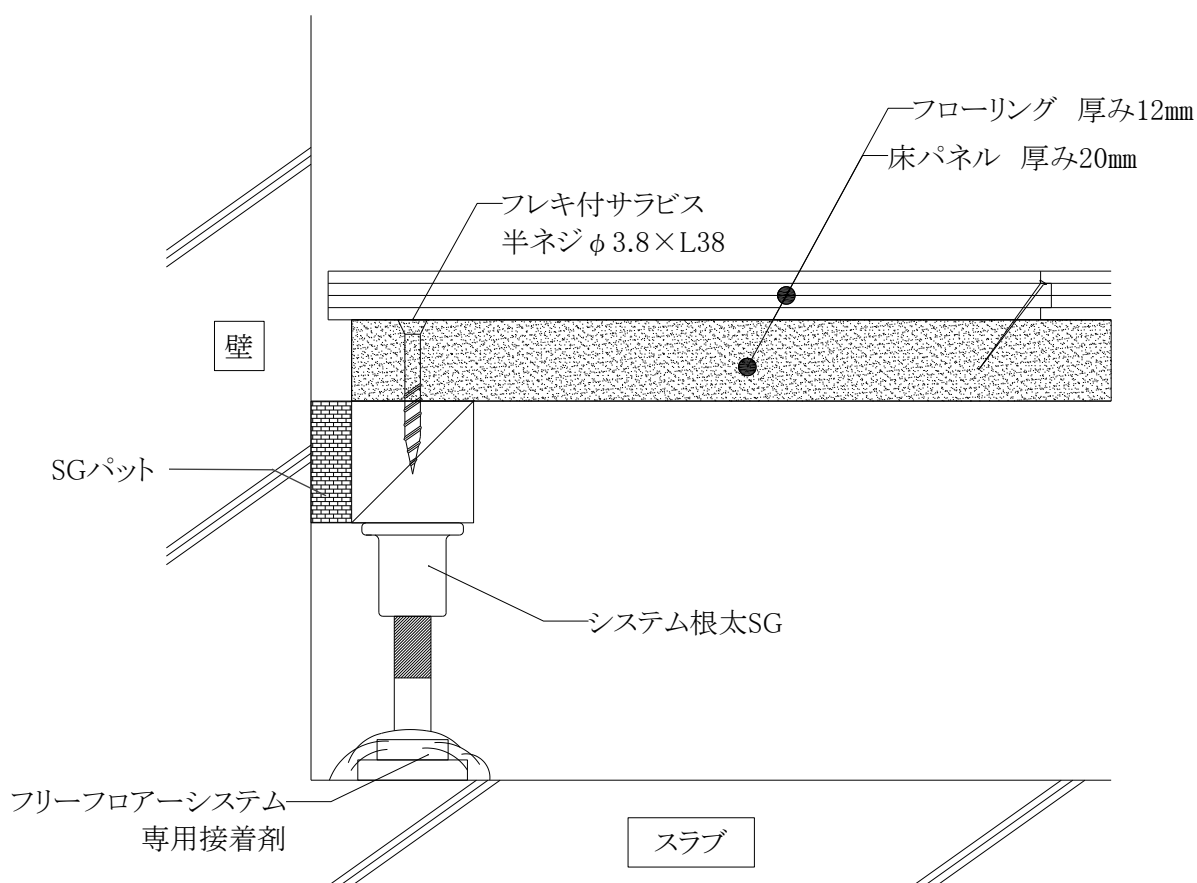
## 2. 製品仕様

### 2-1. システム根太SGとは

LVL製の根太材と金属製の支持脚からなるきわ根太です。支持脚は金属製のナットとボルト（ゴム座付）で構成され、ボルトを回すことによりレベル調整が可能です。

また、壁との間にSGパットを設けて壁と根太材の接触を避けることで、遮音性能を向上させることができます。

### 2-2. 構成



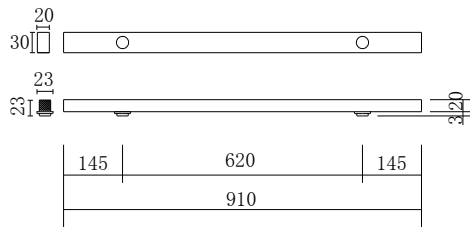
### 2-3. 材質

部 材 名		材 質	備 考
システム根太SG (本体)	根太材 (低床用)	LVL(集成材)	・高さ20×幅30×長さ910(mm) ・F☆☆☆☆
	根太材 (汎用)	LVL(集成材)	・高さ30×幅30×長さ910(mm) ・F☆☆☆☆
	ナット	スチール	・2種類(Sナット、Mナット)
Gボルト(支持脚)	ボルト	スチール	・14種類
	ゴム座	スチレンブタジエン ゴム(SBR)	・ゴム硬度70° ・φ36×高さ10(mm)
SGパット(緩衝材)		発泡ポリエチレン	・長さ30×幅10×高さ15(mm)
フリーフローシステム 専用接着剤		1液型ウレタン系	・容量400g/本 ・F☆☆☆☆

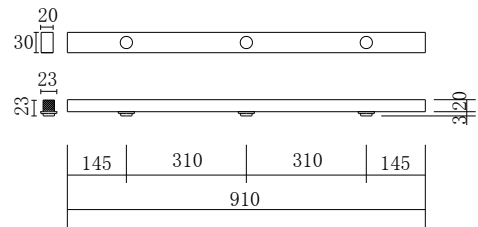
### 2-4. 製品規格

〔システム根太SG 本体 (根太材低床用)〕

システム根太SG 20×30×910-2S

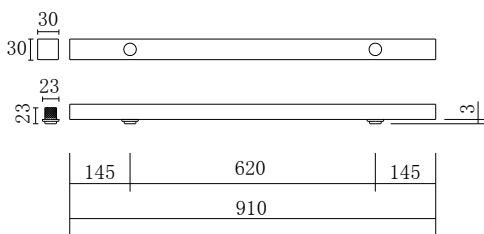


システム根太SG 20×30×910-3S

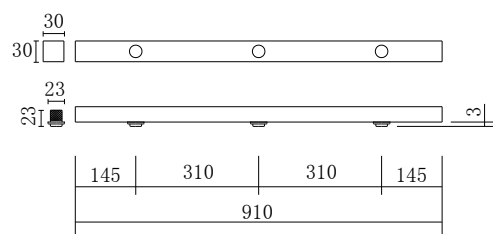


〔システム根太SG 本体 (根太材汎用)〕

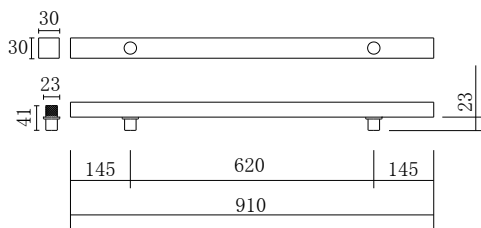
システム根太SG 30×30×910-2S



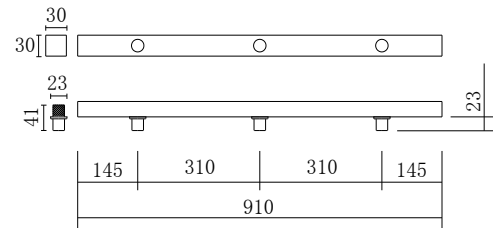
システム根太SG 30×30×910-3S



システム根太SG 30×30×910-2M

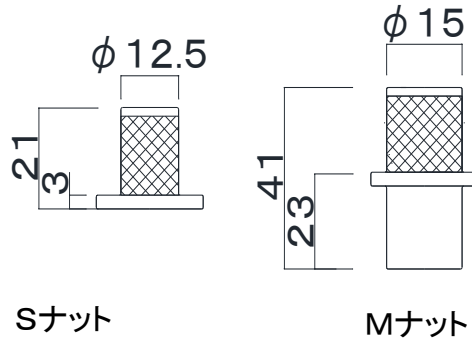


システム根太SG 30×30×910-3M

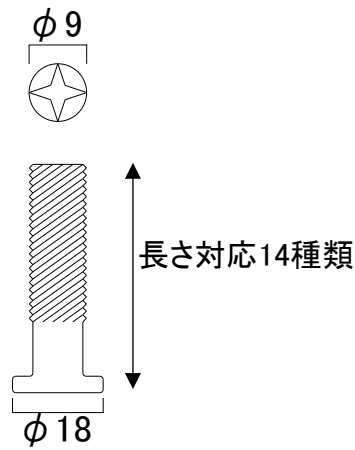


『システム根太SG 30×30×910-O△』の表記に関して、

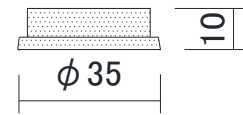
[ナット]



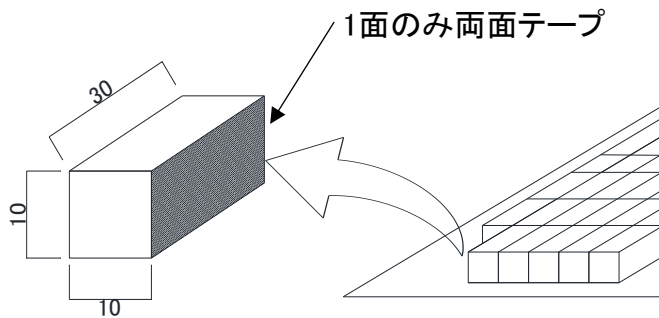
[ボルト]



[ゴム座]

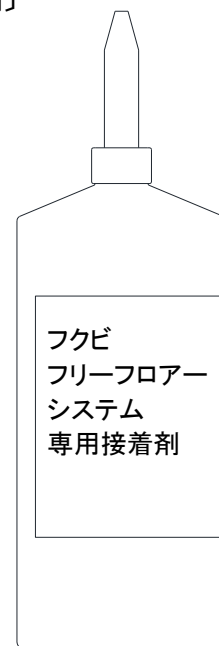


[SGパット]1シート60個



※SGパットは一枚一枚離型紙から剥して根太材に貼り付けてください。

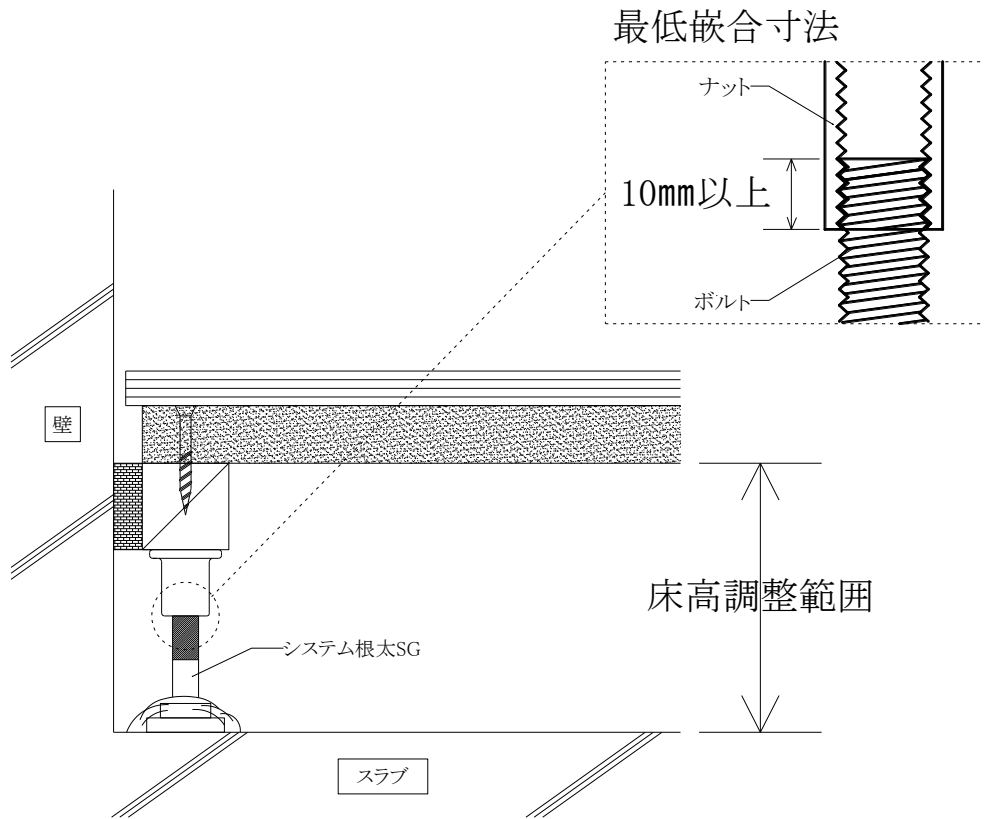
[接着剤]



容量: 400g

## 2-5. 床高調整範囲

- ・最低嵌合寸法…10mm(ナットにボルトを嵌合しておくべき最低必要長さ[下図参照])
- ・調整範囲…スラブから床パネル天端までの床高さ[下図参照]
- ・中央高さ…調整範囲の中央値



根太材	ナット	ボルト	床高調整範囲(mm)	中央高さ (mm)	最低嵌合 寸法 (mm)
低床用	S	Gボルト33	33~46	39	10
		Gボルト43	43~66	54	
汎用	M	Gボルト63	63~106	84	
		Gボルト93	93~136	114	
		Gボルト123	123~166	144	
		Gボルト153	153~196	174	
		Gボルト183	183~226	204	
		Gボルト213	213~256	234	
		Gボルト243	243~286	264	
		Gボルト273	273~316	294	
		Gボルト298	298~341	319	
		Gボルト323	323~366	344	
		Gボルト348	348~391	369	
		Gボルト373	373~416	394	

## 2-6. ナットとボルトの組み合わせ

システム根太SGは、ボルトの本数(2本もしくは3本)で施工箇所が異なるため、下記の表にもとづいて使い分けてください。

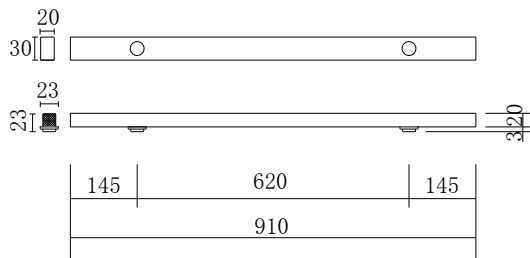
ナットの本数と長さ	ボルト	施工箇所
システム根太SG 30(20)×30×910-2S(M)	Gボルト	一般部分
システム根太SG 30(20)×30×910-3S(M)	Gボルト	開口部や重量物が載る箇所

### ・ナットの本数と長さ

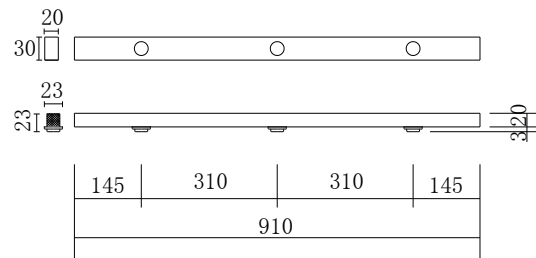
[システム根太SG 本体 (根太材汎用)]

[システム根太SG 本体 (根太材低床用)]

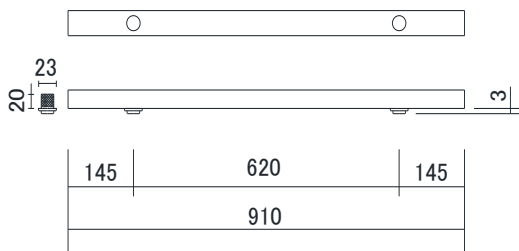
#### システム根太SG 20×30×910-2S



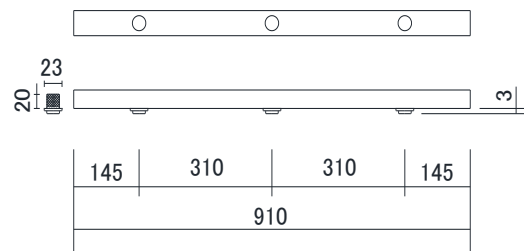
#### システム根太SG 20×30×910-3S



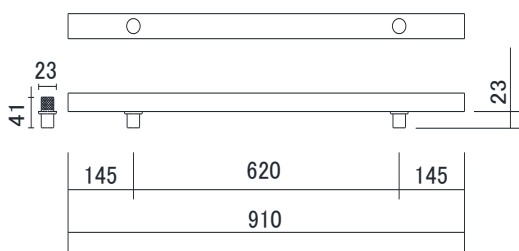
#### システム根太SG 30×30×910-3M



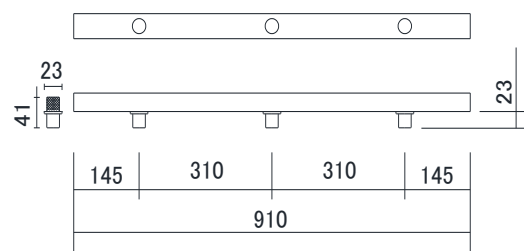
#### システム根太SG 30×30×910-3S



#### システム根太SG 30×30×910-2M



#### システム根太SG 30×30×910-3M



【「システム根太SG 30(20)×30×910-○△」の表記に関して】  
○:ナットの本数(2本もしくは3本) △:ナットの長さ(SナットもしくはMナット)





### 3. 施工手順

---

#### 3-1. 施工を始める前の確認・点検事項

##### ●床スラブのレベル及び不陸の確認

- ・コンクリートスラブのレベルを確認する。
  - ・きわ根太の高さと掃き出しサッシ、木製建具、家具式クローゼット、配管等との取り合いを確認する。
  - ・システム根太SGが設置できないような不陸、傾き等をあらかじめ確認する。
- 不陸、傾き等によって施工ができない状態であれば、元請業者に報告し、補修を行う。
- ・床の高さに合った調整範囲のシステム根太SGを用意する。

##### ●使用材料の保管場所

- ・各材料は水のかからない、水平で直射日光が長時間当たらない場所に保管する。
- ・床パネルや合板は湿気の少ない場所に直置きする。立て掛けは厳禁とする。

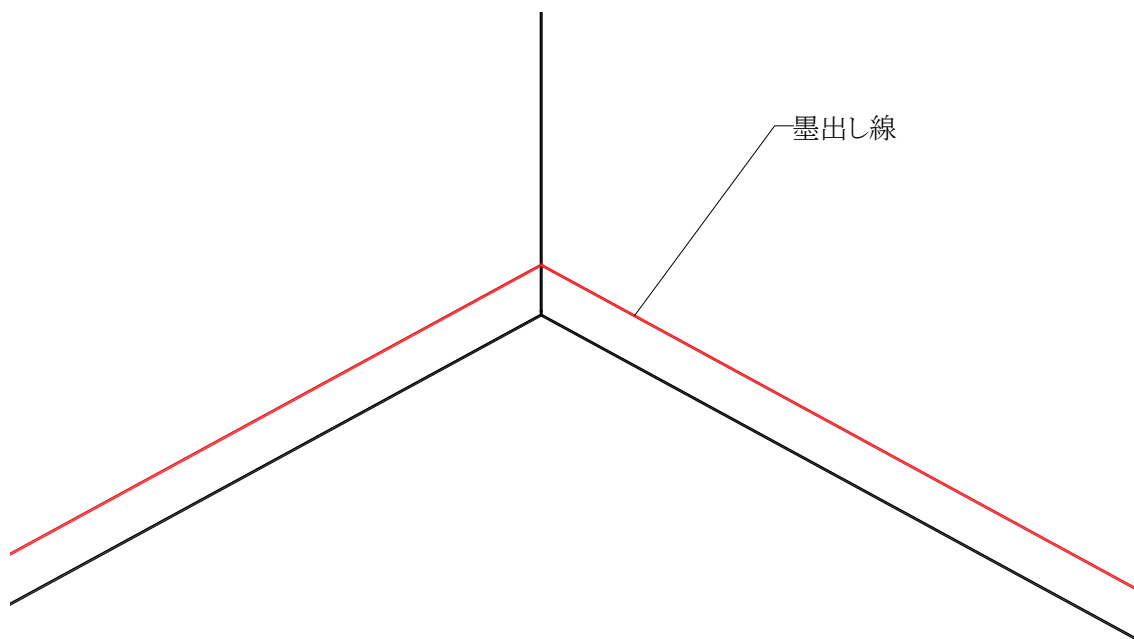
##### ●床下地面の清掃

- ・木屑、ゴミ等を除去する。
- ・スラブが濡れている場所、水たまりがある場所は、乾かす。

### 3-2. 施工手順

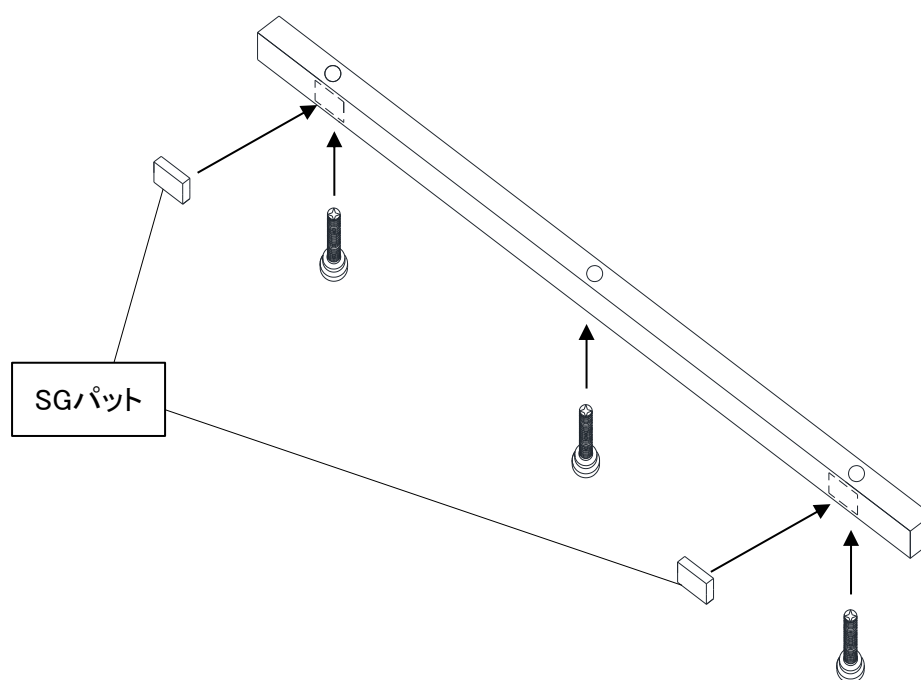
#### ①墨打ち

床の仕上げ高さ及び仕上げ材の厚みを図面で確認の上、根太の天端に合わせて墨出しを行います。



#### ②システム根太SGの組立

所定の高さにある程度合わせてシステム根太SGのナット部にGボルトをセットします。  
根太材の側面の所定の位置にSGパットを貼り付けます。

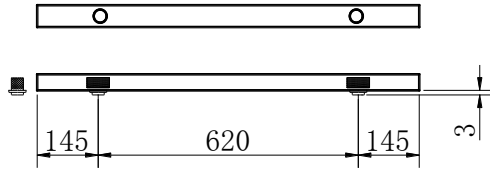


〔SGパット貼り付け位置〕

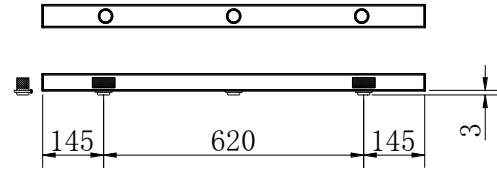
下記の図に基づいてSGパットを根太材の所定の位置に貼り付けてください。

■ : SGパット貼り付け位置

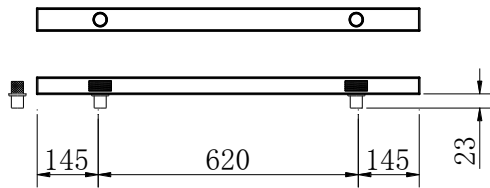
システム根太SG 30×30×910-2S



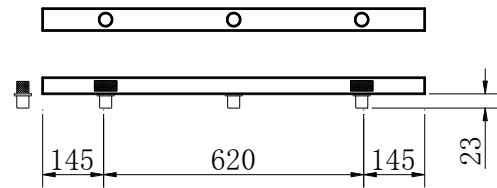
システム根太SG 30×30×910-3S



システム根太SG 30×30×910-2M



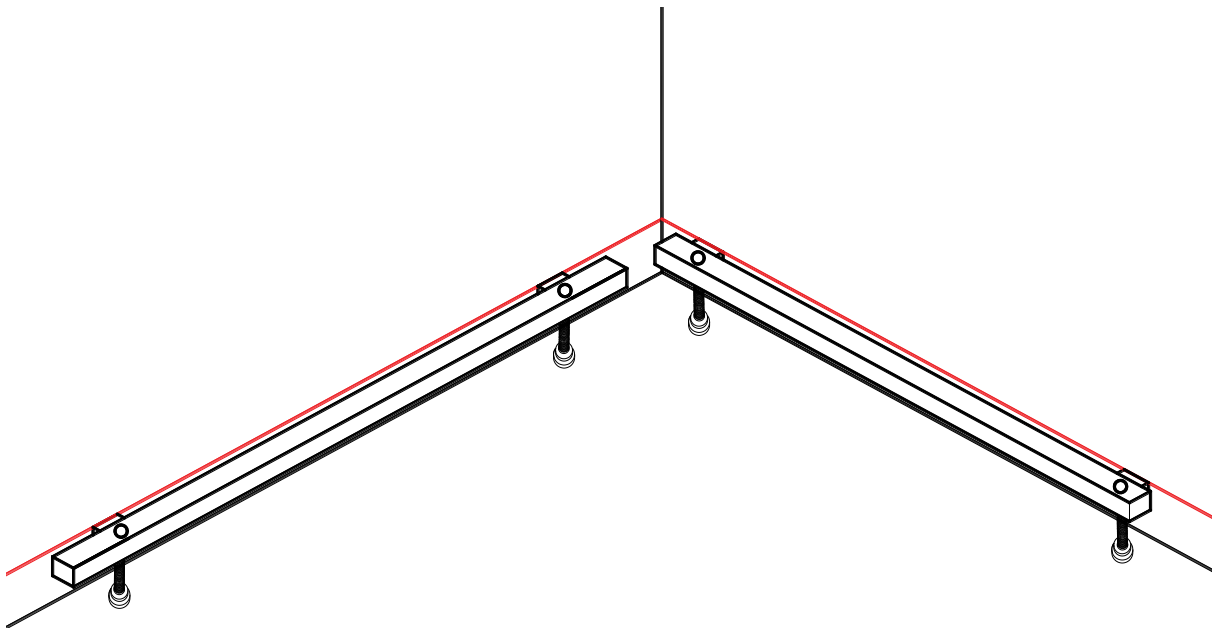
システム根太SG 30×30×910-3M



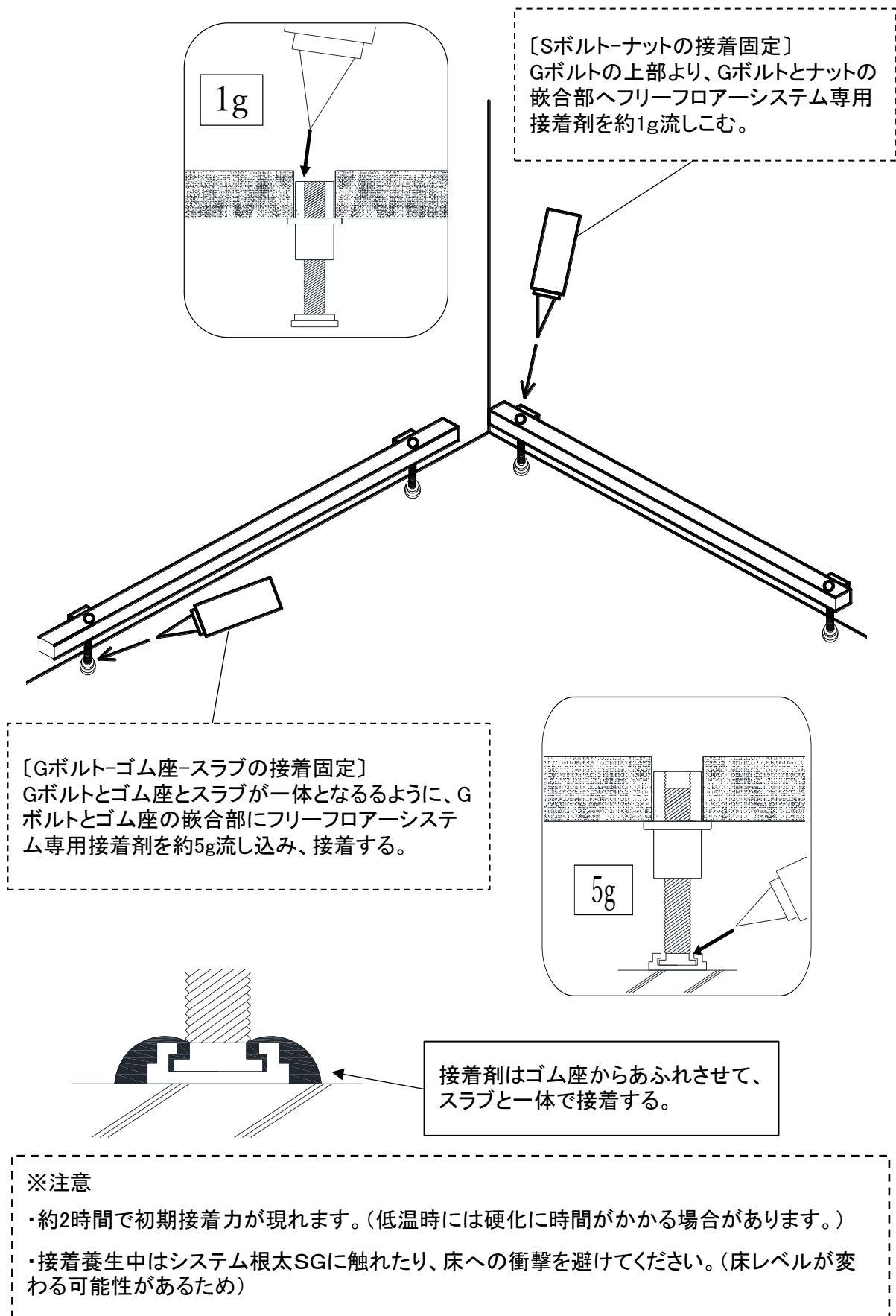
③システム根太SGの取り付け

Gボルトが接地する床スラブにホコリ等が無いことを確認し、墨打ち線に合わせながらプラスドライバー(3番)でレベル調整を行います。

調整後、SGパットの剥離紙を剥がし、基準墨を確認しながら壁に貼り付けます。



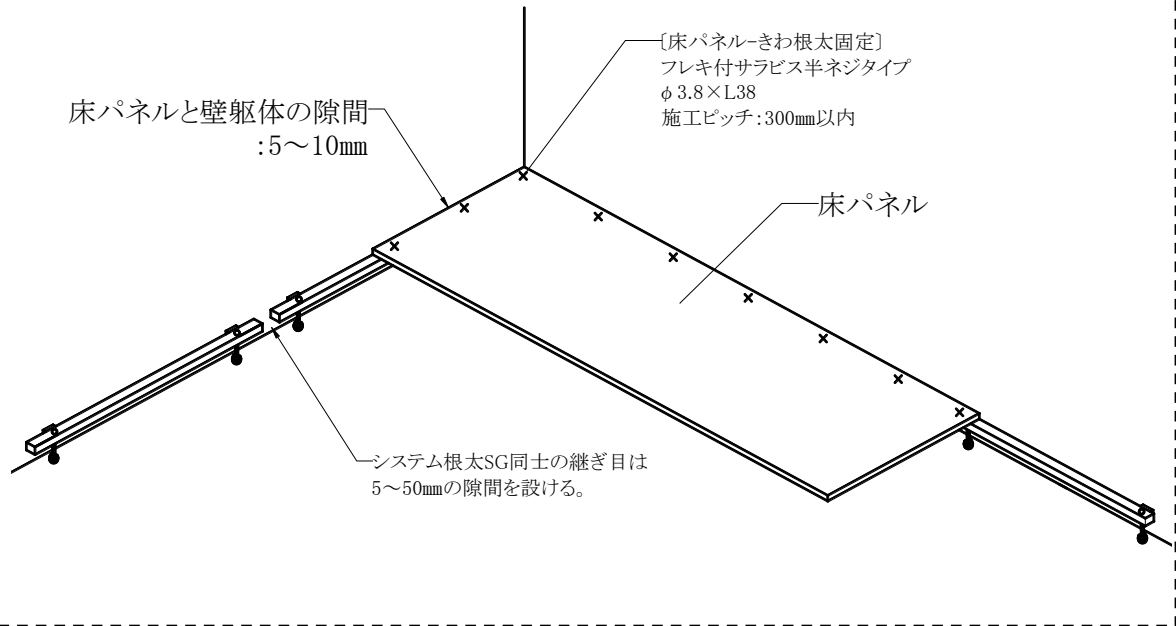
④Gボルト-ナットの接着固定、Gボルト-ゴム座-スラブの接着固定



〔床パネルの敷込み〕

床パネルをシステム根太SGに載せる時、床パネルと壁躯体との間に5～10mmの隙間を設けてください。

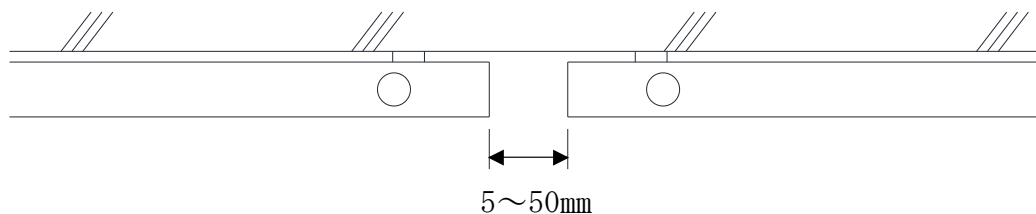
システム根太SGにかかる床パネルをフレキ付皿ビス(φ3.8×L38、ピッチ300mm以内)で固定してください。



## 5.配置方法

### 5-1. 一般部

- システム根太SG同士の継ぎ目は5～50mmの隙間をあけます。



#### 〔跳ね出し部分のカット〕

壁躯体の長さによってはシステム根太SGがきれいに納まらない場合があるため、根太材の跳ね出し部分を必要長さにカットしてください。(跳ね出し部分のカットは最大120mmまで)

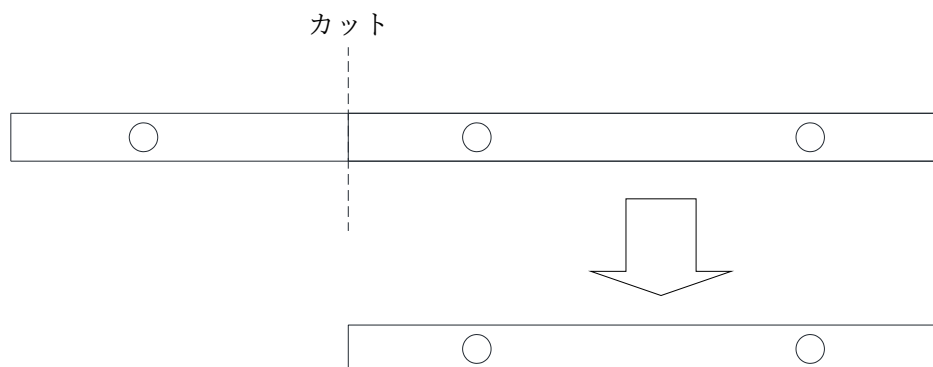
システム根太SG30×30×910-3S(3M)の場合は、3本の支持脚のうち、2本の支持脚を残して根太材をカットして使用することも可能です。



- ・システム根太SG30×30×910-2S(2M)の場合



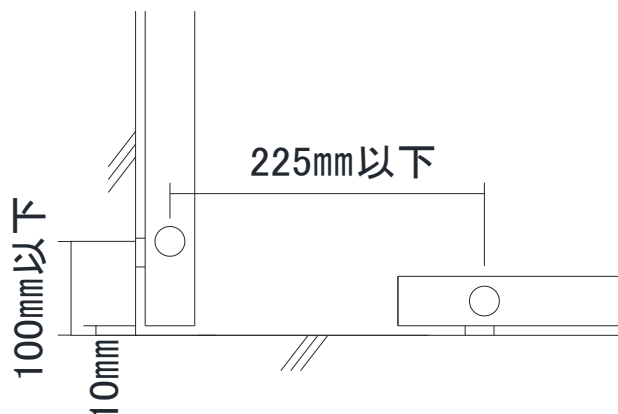
- ・システム根太SG30×30×910-3S(3M)の場合



## 5-2. 入隅部

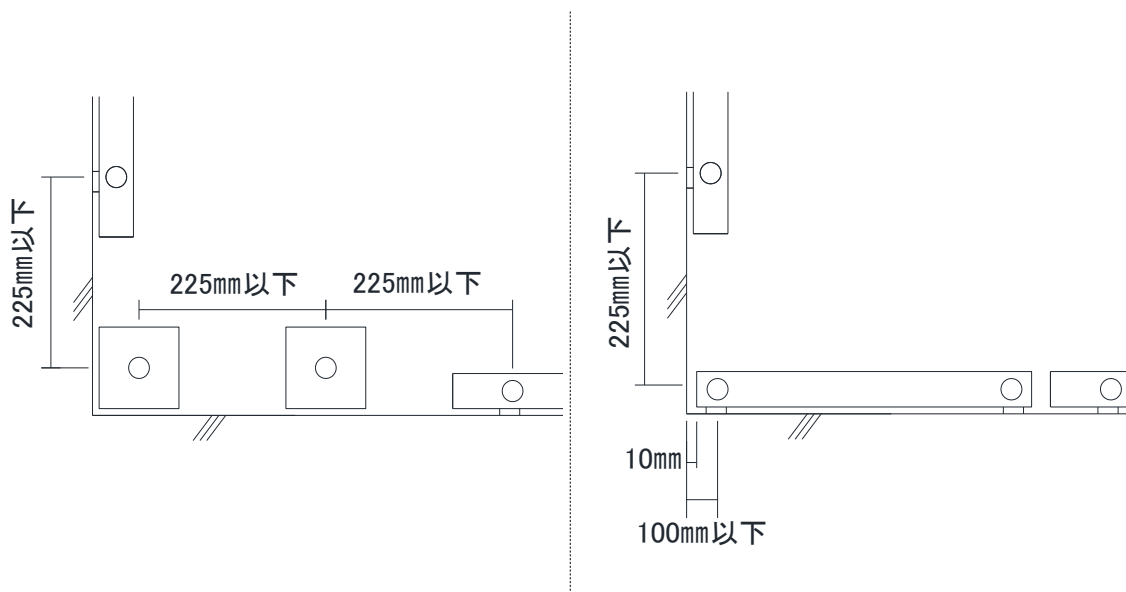
●システム根太SGの支持脚が壁躯体から100mm以下になるように、どちらか一方の根太材の跳ね出し部分をカットします。また、根太材の端部は壁躯体から10mm程度の隙間をあけます。

もう一方のシステム根太SGは、支持脚間の距離が225mm以下になるようにします。



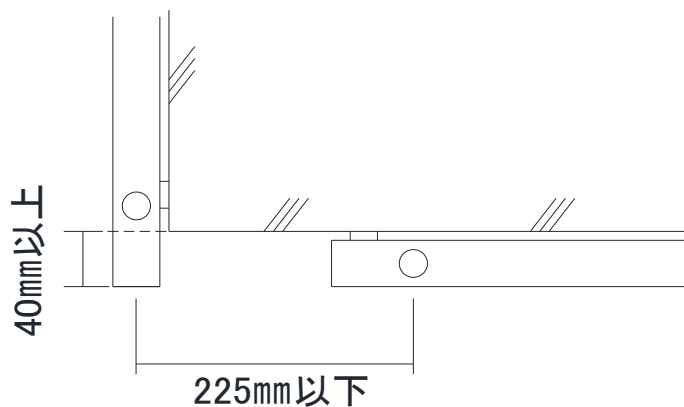
[225mmを超えてしまう場合]

システム根太SGの支持脚との間隔が225mm以下になるようにCP-F支持脚を設置する[左下図]か、跳ね出し部分を必要長さにカットしたシステム根太SG[右下図]を設置します。



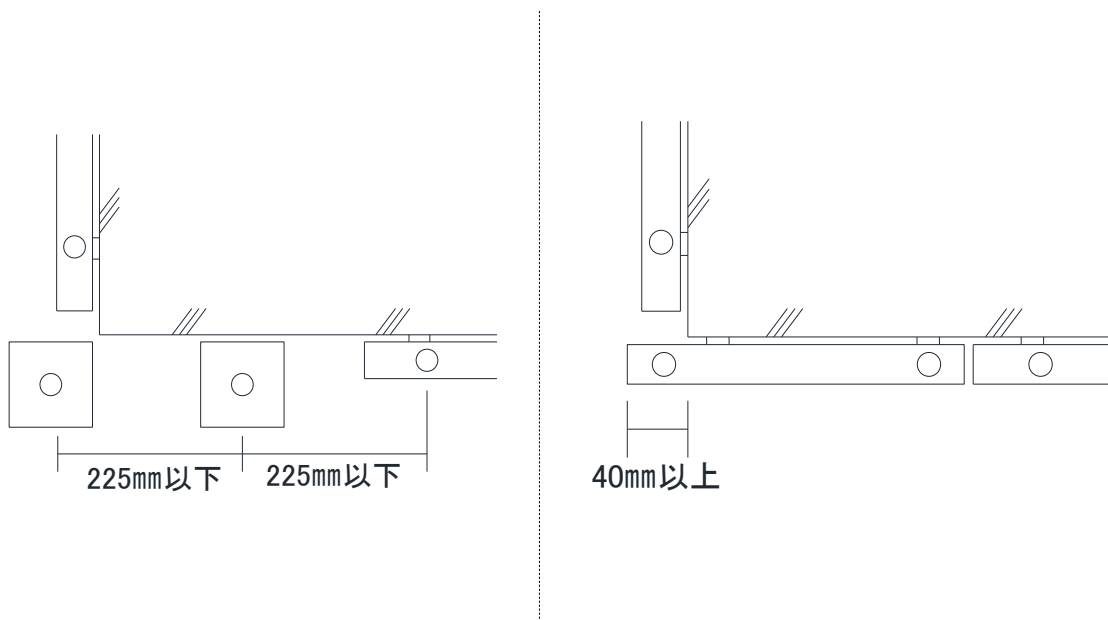
### 5-3. 出隅部

●どちらか一方のシステム根太SGの支持脚を跳ね出し部分が出隅部から40mm以上飛び出すようにし、もう一方のシステム根太SGの支持脚との距離が225mm以下となるようにします。



[225mmを超えてしまう場合、40mm以上飛び出せない場合]

システム根太SGの支持脚との間隔が225mm以下になるようにCP-F支持脚を設置する[左下図]か、跳ね出し部分を必要長さにカットしたシステム根太SG[右下図]を設置します。

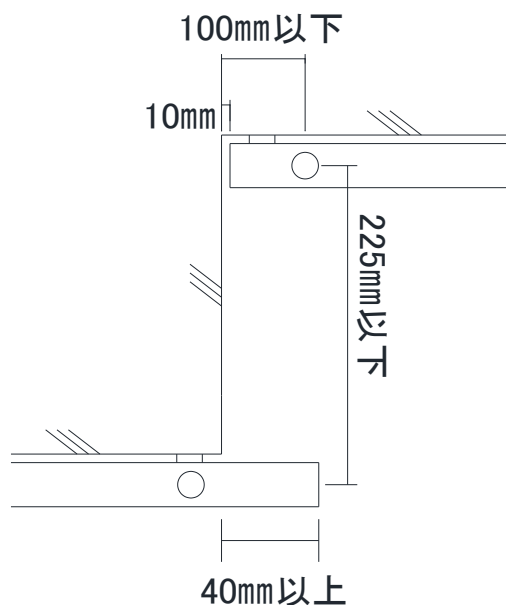




#### 5-4. 柱型部

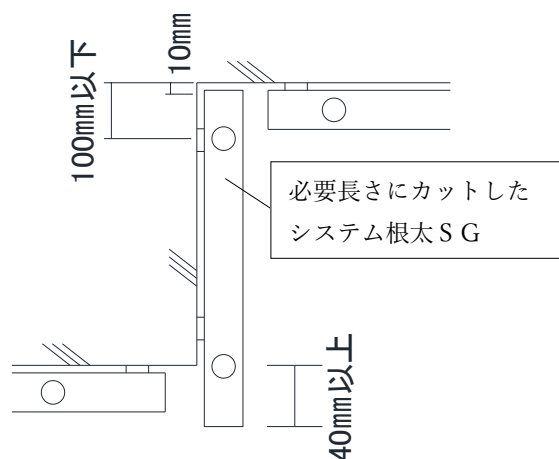
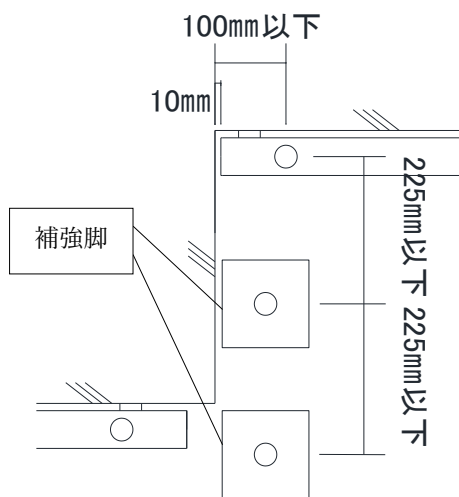
●システム根太SGの支持脚が壁躯体から100mm以下になるように、どちらか一方の根太材の跳ね出し部分をカットします。また、根太材の端部は壁躯体から10mm程度の隙間をあけます。

もう一方のシステム根太SGは、支持脚間の距離が225mm以下になるように施工し、かつ、システム根太SGの跳ね出し部分が柱型部から40mm以上飛び出すようにします。



[225mmを超えてしまう場合、40mm以上飛び出せない場合]

システム根太SGの支持脚との間隔が225mm以下になるようにCP-F支持脚設置する[左下図]か、跳ね出し部分を必要長さにカットしたシステム根太SG[右下図]を設置します。



### 5-5. パーティクルボードのかかり寸法について

●パーティクルボードの根太材へのかかり寸法が50mm以上となるように、あらかじめパーティクルボードを割付けを考慮して、システム根太SGを配置します。

